2023 年度

梅春　ニューヨーク研修
報告書

授業概要

本科目は文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP 事業）であった長期学外学修プログラムを本学独自の継続事業として実施するものである。ニューヨークにおける 4 週間のプログラムでは、語学学校での学びや FIT（ニューヨーク州立ファッション工科大学）の学生たちとの交流を通して語学力や異文化理解を深める。また、ファッションショー見学やアパレル企業研修、市場調査、美術館見学などにおいてニューヨークの最新トレンドやビジネスの仕組みと VMD、芸術に関心を持つことを目的とする。

到達目標

長期学外学修プログラムの目的であるコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向を習得し、さらに本科目の学修で得られる語学力または自立性や分析力、積極性を身につけ「グローバル創造力」の育成を目的とする。ニューヨークでファッション業界の現状を体感し、語学学校での学びにおいては語学力を上達させ、異文化の人々との交流によってグローバルな視野で物事を捉えて考える力を養うことができる。

研修スケジュール（2024 年 2 月 9 日～3 月 9 日：28 泊 30 日）

日	月	火	水	木	金	土
2/4	5	6	7	8	9 羽田空港発(11:05) JFK 空港着(10:00) 専用車で 92NY へ	10 ・92NY から NYEA(語学学校)、訪問先企業への経路確認 ・ANNA SUI 2024-25aw ショー見学（17:00）
11　建国記念の日 ・92NY 周辺散策 ・美術館への経路確認 ・週報提出	12　振替休日 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) ・Williamsburg 散策	13 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) ・UNIQLO research and development center 見学	14 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	15 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	16 ・Metropolitan Museum of Art 見学 自由行動	17 自由行動
18 自由行動 ・週報提出	19 自由行動 Presidents Day (National Holiday)	20 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	21 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	22 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) ・F.I.T. Museum 見学	23　天皇誕生日 ・MoMA 見学	24 自由行動
25 自由行動 ・週報提出	26 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) ・Brooklyn Museum 見学	27 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) ・Williamsburg 散策	28 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) ・FIT 学生交流会 @FIT (15:00)	29 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) ・Whitney Museum of American Art 見学	3/1 自由行動	2 自由行動
3 自由行動 ・週報提出	4 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	5 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	6 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	7 ・語学研修 @NYEA (10:00～13:30) 自由行動	8 92NY チェックアウト 専用車で JFK 空港へ JFK 空港発(12:40)	9 羽田空港着(17:15)
10 ・週報提出	11	12	13 事後教育 @文化学園大学 (10:00～12:00)	14	15	16

成果と課題

本年度は、造形学部 1 年生 1 名、国際文化学部 1 年生 2 名の計 3 名で研修を実施した。

研修までの期間は、国際交流センターの協力の下、FIT で日本語を学ぶ学生の来校に合わせて 2023 年 5 月に本学で交流会を行い、本学の学生は英語で自己紹介をし FIT の学生と積極的にコミュニケーションを取り、連絡先を交換するなど、互いに交流を深める機会を設けた。また、研修スケジュールやニューヨークの最新情報（治安や物価、注意事項)、研修費などについて周知するために、2023 年 11 月に説明会を実施、2024 年 1 月には旅行会社の説明会、同月に海外旅行保険会社の説明会を「梅春　ブリスベン研修」と合同で実施した。以上のように、前・後期 4 回の事前教育を終えた後、4 週間の研修に入った。

NYEA（New York English Academy）での語学研修に際しては、例年同様、本年度も学生は事前に自宅でオンラインテストと面接を受け、NYEA による英語クラスのレベル調査を行った。授業で使用するテキストは、NYEA で発注・手配などの対応にあたってもらった。クラスには、本学の学生と同様に英語を学びに来ている外国人もいるため、語学は勿論、異文化について触れる機会にもなっている。

本科目は、ニューヨークのマンハッタンを生活拠点としている。マンハッタンは、東京に比べて犯罪率も高く、リスクマネジメントへの対策は必須である。そのため、研修中は宿泊先の近くであっても単独行動はせず、必ず 2 人以上で行動することを徹底している。また、夜 8 時以降の外出は禁止とするなど、最低限のルールを設けることによって、学生自身の協調性や規律性を高め、規則正しい生活を送ることにもつながると考える。

4 週間のうち 15 日間の語学研修では、学生たちは英語を学ぶ意欲がさらに向上し、英語力が高まったことを実感するなど、一人一人にとって良い成果が得られたのではないかと感じる。そして、FIT を訪問し、学生交流や服飾について英語で学ぶ機会を通して、自身の英語力を再認識することができ、今後の学びにおいてどう向き合うのか、自身でより効果的な学習方法を考えることにもつながっている。

研修期間が NYFW（New York Fashion Week）と重なっていることから、本年度は ANNA SUI 2024-25aw collection を見学する機会に恵まれた。ニューヨークを代表する世界的なファッションブランドのショーを観た学生たちは、最新トレンドの傾向やファッションのエネルギーを肌で感じることができた。

自由行動の時間を利用して学生たちだけで美術館や博物館へ行き、服飾や芸術への知識を深めると共に、その国の伝統や文化にも触れ、創造力を養うことにも通じると考える。また、マンハッタンやブルックリンを散策することで、地域性を理解し、日本との文化の違いについても改めて考える機会にもなったようである。

途中、体調を崩した学生はいたが、本年度も大きな問題も無く、無事に研修を終えることができた。本科目は語学研修を主体とした 4 週間という限られた日程ではあるが、マンハッタンという立地の良さを利用して観光やショッピングなどを楽しむ機会もあり、学生の様子から英語力の向上や学びも多く、充実した研修になったようである。

本年度は、研修の参加人数が後期に確定したため、研修費の伝達も遅くなってしまった。そのため、今後は前期の早い段階で人数を確定し、参加者へ研修費の概算を早期に提示することで、学生が研修までの期間に様々な準備に備えることができるよう考慮することが課題である。

造形学部 デザイン・造形学科 1年

1. 研修中の目標、計画

今回の研修での目標としては、ニューヨークのファッションやアートに触れ、カルチャーの違いを知ること、英語でのコミュニケーション力向上である。ファッションやアートと言えばニューヨークであり、どちらも自分にとって大好きな分野であるため、現地で体感し、吸収するということ、そして、海外で働いてみたいという漠然とした夢が昔からあったため、現地で働いている人の話を聞くことや、そのための英語力向上も目標である。

2. 英語への取り組み

普段の日常会話に困らないように、英語をメインに話す友人とは必ず英語で会話をするようにし、映画やドラマなどを観て耳を英語に慣らすことも心掛けていた。特に、勉強などの特別な取り組みを事前に行っていたわけではないが、普段から行っていたことがかなり生かされていたと思う。

現地での英語の授業では、分からないことはとことん英語で先生に質問した。とにかく分からないことを分からないままにしておかず、自分が理解するまで質問した。質問をするという作業を行うことによって、アウトプットに繋がり、英語力の向上に繋がったと感じる。

研修後は、研修前よりもさらに英語に向けて勉強したいという気持ちが強くなった。

3. FIT の授業で学んだこと

貴重な服を直接触らせてもらい、年代によって異なるディテールの特徴について細かく説明を受け、肌で感じながら服の歴史について学ぶことができた。年代によってシルエットやデザインの違いがはっきりとしており、時代背景と関連していることに気づいた。特に、女性のドレスのシルエットには多くの秘密が隠されていて、一番感動したのは肩から下着の肩紐がはみ出ないように留められる仕組みになっているデザインがあり、驚いた。英語の説明からボキャブラリーを増やすこともできた。

日本語クラスの学生との交流会では、本学と FIT の学校生活の違いや互いの国のお勧めスポットや、何を専攻しているかなど、意見交換をしてとても有意義な時間を過ごした。自分たちがネイティブの立場になると、言葉を教える難しさを痛感した。普段は使わないような言い方をして自分たちが注意をされる場面もあったが、互いに異なる言語で話そうとすることが、とても楽しいと感じた。

4. 企業訪問

ユニクロのオフィスを訪問し、各部署の方々から話を聞いた。日本人スタッフが多く、日本とニューヨークでの働きやすさの違いについての話しが、とても興味深かった。彼らは、全員一致でニューヨークの方が働きやすいと答えた。日本ではミーティングが多く、それだけで一日が終わってしまったり、目の前の仕事に集中して向き合う時間が、ニューヨークにいる方が取りやすくなったという意見が多く聞かれた。オフィス内はとても解放感があり、シンプルでアイディアを考える空間にとても最適であると感じた。自分が働くことを想像すると、とても理想的なオフィスであった。スタッフは、それぞれキャリアも異なり、多くの経験を経てユニクロのニューヨークオフィスで働いている。簡単に入社できるわけではない、という話しも印象的である。

5. ANNA SUI のショー見学

ANNA SUI のショー見学では、これまでに無い貴重な時間を経験した。今回は、書店のバックヤード、別館のような場所で開催された。雑誌関係者、ジャーナリスト、カメラマン、アナの友人、インフルエンサーなど、限られた人のみが招待されていた。中には、マーク・ジェイコブスや映画監督のソフィア・コッポラなどの姿も見られた。ソフィアが来場した際、私は興奮が抑えきれず、すかさず話しかけに行き、サインまでもらうことができた。

今回のショーは、全体的にブラウンやオレンジのカラーがベースとなっており、クラシックな要素が入って頭にバンダナを巻いているルックが、特に目に飛び込んできた。会場の照明もルックに合わせた暖色になっており、BGM も含めて全てが最高のショーであった。

ショーのあと、アナ本人に挨拶することもでき、とても幸せであった。会場の来場者のファッションもとても華やかで、会場全体が ANNA SUI の色に包まれていた。

6. 美術館や博物館の見学

今回は、メトロポリタン美術館、MoMA、ブルックリンミュージアムに行った。

MET は、建物が大き過ぎて一日で全て回りきることができないため、観たいエリアをピックアップして回った。私は西洋の絵画にとても興味があり、メインに絵画のエリアを回ることにした。一番観たかった画家はフェルメールで、MET に展示してある 5 作品を全て観ることができ、とても嬉しかった。フェルメールの絵画は、どれも光の入り方が綺麗で、まるで写真のような陰影が特徴的である。有名な作品の一つである『水差しを持つ女』は、想像していたよりも小さなサイズで、見応えのある作品であった。

他にも、ドガのバレリーナたちの絵画を観ることができた。期間限定で開催されていた dressing woman の展示では、様々なブランドのアーカイブが展示されており、貴重なドレスを観ることができた。

MoMA には、私の好きなシュルレアリスムの作品が多く集まっていたため、終始興奮状態であった。特に、ダリやマグリットが私の好きな画家で、ダリの有名な『記憶の固執』は、両手に収まる程の小さなキャンバスであった。しかし、あの独特なダリの絵に吸い込まれていくように、多くの人が作品を囲んでいた。

展示を観て回っていると、銅像の作品に触れている人がいた。よく見ると盲目の方で、ビニール手袋をして作品に手で触れながら鑑賞をしていた。付き添いで案内している方も盲目の方でした。実際に目で観ることができなくても、作品を楽しめる方法があり、とても進んでいると感じた。

7. ニューヨークの市場調査

ニューヨークのファッションスタイルは、日本よりもカジュアルで動きやすい服装の方を多く見かけた。10 代の女性は特にカジュアルなレギンス姿で出歩いている姿が多く、日本人は外出時に毎回身なりを整えているイメージであるのに対して、ニューヨークの人々は特別な外出と普段着でかなり区別していると感じた。フリマやファッション街へ行くと、お洒落に着飾っている人を見かけることもあった。また、お洒落の基準も国によって少し異なると感じた。ニューヨークのトレンドは、ノームコアファッションといったシンプルなコーディネートにハイブランドをポイントで合わせるファッションが流行っていた。

お店に入ると店員と挨拶を交わすことが普通で、相手を褒めることも当たり前であった。日本は通りす

がりの人を褒めたりすることは無いため、私はすぐに褒め合える文化がとても素敵だと感じた。また、日本に比べてホームレスが多く、電車内や街中でお金を恵んでくれと声を掛けられることも毎日のようにあった。ニューヨークは貧富の差が激しいということを痛感した。

チップの文化には、最後まで中々慣れなかった。受取りだけの店ではチップを払わず、レストランなどでサービスを受けた際にはチップを払うようにしていた。

ニューヨークの物価は、全てにおいて高かった。コーヒー一杯でも日本円で 500 円以上し、外食をすると最低でも日本円で 3,000 円掛かるため、毎回の外食は苦しいと感じた。

8. 研修中の一週間のスケジュール

平日の月曜日から木曜日まで午前中に語学学校があり、金曜日から日曜日が休みだったため、学校のある日と無い日を基準に、観光やショッピングなどのスケジュールを決めていた。部屋で過ごす日はあまりなく、ほとんど外出して時間を有効活用していた。平日の学校の後は、学校近辺から移動しやすい場所に出掛け、休日はショッピングやフリーマーケットなど、一日必要なイベントを予定に入れていた。

9. 研修費用の内訳

・食費　　私は食費と雑費を分けて使いたかったため、食費はデビットカードを準備し、予算は 200,000 円とした。外食やスーパーマーケット（食材、日用品など）で約 150,000 円使用した。

・交通費　　メトロカードは 132 ドル（約 19,800 円）、Uber を使う場面も多々あり、合計で約 30,000～40,000 円であった。

・雑費　　買い物、土産、観光など含めて約 300,000 円であった。

10. まとめ、考察、今後の目標

研修を終えて、今以上に英語力を伸ばしていきたいと感じた。そして、海外で働きたいという目標ができた。海外でコミュニティーを拡げることで、自分の未来のチャンスが増えるということに気づいた。

今回、私はタイミングよく Heaven by marc jacobs の撮影モデルに応募することができ、プロジェクトに参加することができた。そこには、多種多様な人々が集まり、当たり前という固定概念がなかった。日本では、同調圧力がとても感じられるが、ニューヨークでは全く感じられなかった。

様々な国籍や文化が混ざったニューヨークは、多様性に溢れており、夢に満ち溢れていた。日本に、もっとこのムーブメントを持っていきたいと感じた。そして、私は多くの文化が入り混じるこのニューヨークにまた行けるように、今以上の英語のスキルアップを目指していきたい。

国際文化学部 国際ファッション文化学科 1年

1. 研修中の目標、計画

現地の人と友達になり、様々な国の人と関わること、そして、ブロードウェイミュージカルの衣装を近くで観るということを、研修中の目標とする。

2. 英語への取り組み

研修前は、英会話教室に通い日常会話で必要な英語力を学んだ。

研修中の語学学校では、9時から13時まで授業を受けた。授業の最初は、その日のテーマに沿って同じクラスの人や先生と話をして、writing と listening の授業の後、全員でゲームをして授業を終えた。クラスの人とも仲良くなれたことが、とても嬉しかった。

研修後の英語力は、自分ではあまり実感する部分は無かったが、研修中は 1 ヵ月に渡り頭の中で英語に変換する作業をしていたため、自然と英語では何と言うのかと考えることが癖になっていた。

3. FIT の授業で学んだこと

FIT では、様々な衣装を見ることができた。見たことのない縫製ばかりだったため、とても興味深く楽しかった。見えないところまで、手の込んだ縫製が施されており、衣装の一点一点がとても素敵であった。自分の作品を制作するときに、参考にしたいと感じた。

4. 企業訪問

訪問したユニクロのオフィスは、一つの部屋に多くの人がいるような狭い空間を想像していたが、実際はとても広々としており、とても開放感のあるオフィスであった。日本人の方も多く働いており、驚いた。ここで働いている日本人の方に、色々な質問をすることができた。私の想像では、英語が堪能な方がニューヨークで働いているのだと思っていたが、英語がそれほどできない人でも選ばれればニューヨークで働いていることを知り、全ての人に平等にチャンスがあるのだと感じた。

5. ANNA SUI のショー見学

今回の研修で、一番楽しみにしていた企画であった。まず、書店をショー会場として使用していたことに驚き、今まで見たことのない場所で行われるショーを観ることができ、とても楽しかった。また、立ち見だと思っていたが、席に座ってショーを間近で観ることができ、刺激的でもあった。

私も、このようなステージを作れるようなレベルになってみたいと強く思った。中々経験できないような貴重な体験をすることができ、とても嬉しかった。そして、アナ本人とも話しができ、感激した。

6. 美術館や博物館の見学

メトロポリタン美術館は、巨大なコレクションと印象的な展示が目を引き、古代から現代までの幅広い芸術作品があった。美術館内も建物自体もとても綺麗であった。

MoMA では、多彩なコレクションが展示されており、特に、私は近代美術や現代アートの展示が興味深かった。芸術の進化や多様性を体感できたと思う。

7. ニューヨークの市場調査

物価は基本的に高く、ニューヨークで生活している中で最も費用が掛かったのは食費であった。最初は、どこの店が安いか分からなかったため、比較的安く購入できる店を探すことが大変であった。店選びや買い物にも徐々に慣れていくと、冷凍食品を購入し、それを数日に分けて少しずつ食べるようにすると、一番食費を節約できることが分かった。

生活している中で、日本との違いが多くあり、特に違いを感じたのは電車である。地下鉄では、ホームレスがとても多く、日本は本当に治安が良く貧富の差があまりない国だということを再認識した。そして、警察官がいる駅がとても多いと感じた。日本で何か事件があったときに見る警察官の人数が、ニューヨークの地下鉄には普通にいた。警察官が多く安心して地下鉄を利用できるが、一方で警察官がいなければならない程危険でもあるということを感じた。地下鉄を利用する際には、つねに緊張感を持つようにしていた。

ニューヨークは、日本とは異なり多種多様な人種が多く、語学学校でも、同じクラスの人は様々な国籍で、言語や宗教の異なる人が集まっていた。また、ブロードウェイミュージカルもショーもオペラやバレエといった舞台芸術もとても有名である。実際にブロードウェイミュージカルを観に行った際は、日本の舞台とは異なる面白さがあり、終始近くで衣装や舞台の作りを観ることができ、とても嬉しかった。別の舞台も観てみたいと感じた。

ファッションは、レギンスのスタイルを良く見かけた。ブロードウェイミュージカルやフリマなどへ行くときには、お洒落をしている人が多い印象であったが、街中を散策しているとレギンス姿で歩いている人がとても多かった。日本と異なり、ニューヨークの人はお洒落をするタイミングを場所によって変えているのだと感じた。そして、現地の方が履いている靴は、スニーカーがほとんどで、ブーツやヒールの靴を履いている人は少なかった。

8. 研修中の一週間のスケジュール

月曜日から木曜日は午前中に語学学校へ行き、午後の自由行動で行きたいところへ行った。

金曜日から日曜日は終日自由行動であるため、美術館やショッピングなど行きたいところへ行くようにした。

9. 研修費用の内訳

・食費　200 ドル程度
・交通費　メトロカード 127 ドル
・観光費　350 ドル程度
・土産代　180 ドル程度

10. まとめ、考察、今後の目標

ニューヨークは日本ほど治安が良くなく、日本では緊張感を持って乗ることは無かったが、ニューヨークの地下鉄は緊張感を持って乗るようにした。しかし、想像していたよりも治安は良いと感じた。ニューヨークは世界中から人々が集まっていることもあり、個性を尊重していくれる場所であった。日本は、様々な規則や取り締まりがあるため、治安の良い安全な国であるが、その反面、帰国した際に少し堅苦し

いと感じる部分もあった。また、ニューヨークは日本に比べると自由な部分が多く、日本のような堅苦しさも無く、自分らしく生きることができそうだと感じた。今後の目標としては、英語力をもっと伸ばして、さらに色々な人と関わりたいと思う。

国際文化学部 国際ファッション文化学科 1年

1. 研修中の目標、計画

最新トレンドやデザイン、現地の人のファッションを実際に見て肌で感じ、それらを今後の自身の作品制作に活かす。また、現地での生活を通して長期留学へのイメージを掴む。そして、現地で新たに友人を作り、コミュニケーションを積極的に取ることで交流の輪を広げることを目標とする。

研修中は、必ず訪れたい場所へ行くことを計画し、ニューヨーク公共図書館やアメリカ自然史博物館、MoMA、MET、セントラルパークなどへ行きたい。

2. 英語への取り組み

研修前は、自分のボキャブラリーを増やすために高校時代に使用していた単語帳を意識的に開くようにした。また、ネイティブの英語に慣れ、ニューヨークの生活の雰囲気を知るために YouTube でブログを見た。

NYEA では、level 1 のクラスからスタートした。一クラスあたり 6〜10 人程度で編成され、授業は 3 つのパートに分かれており、始めに簡単なスピーキング、次にディクテーションとそのトピックに関する単語の解説、意見交換を行い、最後に用意されたリーディング問題を解く形であった。授業を受けた感想は、それぞれの第一言語による発音の癖があり、聞き取りに少し苦労した。分からない単語やフレーズなども英語で理解しようとするため、言い換えに対して少し柔軟になったように感じる。

授業初日から、内容が全体的に簡単だと感じたため、クラスの先生に相談し、テストを受けた結果、95%以上のスコアだったため、level 2 へ移動した。Level 2 でも、授業のスタイルは同様であったが、一つの問題に割く時間が短く、量が増えた。周りも文法は完璧ではないが、自分の伝えたいことを伝えるのに積極的であった。

また、通常授業に加え、School trip というプログラムで英語学習者向けの演劇鑑賞にも参加した。1 シーンごとに区切り、進行役がどのようなシーンなのか、役者は何と言っていたか、どのような感情であったかなど、質疑応答の時間があり、どのくらい理解できているのかを確認しながら劇を進めていく。もう一度と言うと、同じシーンを再度演じてくれるため、聞き取れなかった部分に集中して理解を深めながら演劇を楽しむことができた。

3. FIT の授業で学んだこと

FIT 博物館のバックヤード見学では、実際に衣装を手に取って当時の極細のパイピング技術やレースを用いた裾の始末、バイアスカットによるデザインなどを見ることができた。日本で展示品に触れるということは無いため、とても貴重な体験であった。元々、クラシックスタイルが好きであるため、デザイン性の面で春課題のアイディアの参考にしたいと思う。

しかし、説明を受ける中で服作りを 1 年しか学んでいない私にとって、衣装の構造やデザインポイントをすぐに理解することは難しかった。もっと基本的な知識が必要であると感じた。英語も全ては理解できなかったため、ファッションを知る上でやはり英語は必要なスキルだと思う。

4. 企業訪問

UNIQLO のニューヨーク支社へ訪問し、オフィス内の見学に加え、実際に働いている方との Q&A を行なった。また、GU の方にも話しを聞くことができた。

オフィスは、想像していたよりも小ぢんまりとしていた。それは、小さいという意味ではなく、ワンフロアの空間に対して少ない人数でスッキリ、のびのびとした印象を受けた。その中にデザインチーム、テキスタイルデザインチーム、パターン制作チーム、縫製チームがあり、そのすぐ横には MD チーム、広告チームなどもあった。ワンフロアで完結し、デザインチームのすぐ横に MD チームがいるため、商品開発に関する意見交換などのコミュニケーションがすぐにできる。クリエイティブと数字の連携が瞬時に取れることが強みであると感じた。

UNIQLO と言えば、MARNI や+J、Disney など、ハイブランドから大手人気ブランドまで、幅広いコラボレーション商品が人気を集めている。コラボ相手の基準などはあるのか聞いたところ、互いにメリットがあることを大前提としているため、互いの企業をリスペクトし合えることが重要であるという回答を受けた。

また、ほとんどの方が中途採用での入社と聞き、中には文化服装学院の卒業生もいた。元々、ニューヨークで働きたいという想いが強かったわけではなく、会社からの異動の勧めをきっかけに考えた方がほとんどであった。そのため、英語が初めから得意だったという方も少なくない。

MD の方々からの話しでは、販売職経験の大切さに気付くことができた。それは、顧客の声をダイレクトに受けて仕事をしたことが無い人間が、イメージだけで作る商品には説得力や営業力が感じられない、という内容で、とてもシンプルな考えであるのに私も気付かなかったことが少し恥ずかしく感じた。さらに、学生時代に意識してやった方が良いことを質問すると、以下のような答えが返ってきた。

・$+\alpha$ のスキルがあると良い（デザイナーズソフトなど）
・人種ルーツへの理解
・つねにオープンでいること（周りから吸収する）
・日本を客観視して考える
・知識を収集する力をつける（特に活字から）
・良い服を知る（目を肥やす）

これらを、少しでも学生生活の内に実践できたら良いと思う。

5. ANNA SUI のショー見学

まず、会場が書店だと聞いて、一体どんな演出になるのか気になっていたが、暖色の少し暗めの照明に壁一面の本棚がクラシックでミステリアスな空間が広がっていた。ショーが始まるまで興奮状態であった。運よく席についてコレクションを観ることができた。カメラマンたちが構えるゾーンの前だったため、多様なプロモデルのポージングを間近で観ることができた。

今回のコレクションは、全体的にクラシックでモダンな雰囲気があり、アーガイルチェックのハイソックス×ポインテッドトゥの組み合わせが印象的であった。また、薄手で深めのビーニーを着用したコーディネートが多く見られた。他には、数体メタリックなドレススタイルも登場した。オレンジやブラウンを使用したウォームトーンとネイビーやグレーを使用したクールトーン、スパンコールやシルバーを使用したメタリック系という、大きく 3 つの構成であった。

人生初のコレクション鑑賞であったが、今までのように画像や映像でしか観てこなかったものとは比べ物にならず、生で観て感じて学ぶことの大切さを改めて実感した。これからも、自分の中で忘れられない貴重な経験になったと思う。

6. 美術館や博物館の見学

研修中に、6 か所の美術館や博物館を見学することができた。

（1）メトロポリタン美術館

中世ヨーロッパの絵画を中心に回った。ゴッホやモネ、ルノワールなどの印象派の有名画家たちの絵画が多く展示されていた。また、同時期に開催されていた WOMEN DRESSING WOMEN の展示も観ることができた。後から VOGUE JAPAN の記事を読み、この展示の目的を知った。

川久保玲については、名前しか知らなかったため、MET で初めて実物を観た。日本人の作品がニューヨークの有名な美術館で展示されていることに感動した。

（2）FIT 博物館

バックヤード見学と同じ日に、FIT のロビーにある常設展を見学した。Statement Sleeves というバレンシアガ、トム・フォード、スキャパレリ、ヴィヴィアン・ウエストウッドなどの特徴的な袖のデザインを年表ではなく、テーマ別に展示したものや、その特定のファッションと時代とそれに関連するトレンドを扱った内容であった。

（3）MoMA

MET と同様に、ヨーロッパの絵画を中心に回った。幾つか観たかった作品は撮影の関係により、ブースが閉鎖されてしまっていたのが残念であった。モネの「睡蓮の池に映る雲の反映」（Water Lilies）は、数パネルに及ぶ大型の展示で、警備員が規制をかける程、多くの人で溢れ返っていた。

（4）ホイットニー美術館

機械が計算によって絵を描くという、AI×アートをテーマにした展示が印象的であった。ハロルド・コーエンが考案した技法が、発案から形になるまでを観ることができた。また、実際にロボットアームが描いているところも見学することができた。

（5）ブルックリンミュージアム

常設展だけを観たが、個人的には作品の展示よりもホールなどの建築の作りの方が面白いと感じた。

（6）アメリカ自然史博物館

幼い時から、この恐竜の展示を生で観てみたいと思っていたため、今回、実際に行くことができてとても嬉しかった。他にも地球と宇宙、海洋生物の歴史について様々な展示があり、とても大きな施設であった。

7. ニューヨークの市場調査

物価は、クレジットカードの変換レートで 1 ドル 152～153 円であった。カフェでの飲み物一杯 5～6.5 ドル、ランチ（NYEA 横のカフェテリア）10～13 ドル、ランチ 20～25 ドル、ディナー25～35 ドル程度であった。

ライフスタイルや文化は、日本よりも店が閉店する時間が早く感じた（大体 19 時前後に閉店していた）。週末は家族や友人、恋人とカフェでランチを楽しんでいる人を多く見かけた。学校の休憩時間などで、オンとオフもはっきりしている人が多いと感じた。店では店員と簡単な挨拶をし、少し会話をすることもあった。自分が思ったことははっきりと口に出さないと相手に何も伝わらない。チップ文化も特徴である。ホームレスがどこにでもいて、Smoke shop が多い。日本に比べてタクシー料金が安い。エスカレーターやエレベーターがあまりない。ゴミ箱が至る場所に設置されているが、ゴミが散乱している。

ファッションは、基本的にスニーカー（NIKE が多い）で、ヒールや厚底靴を履いている人は少ない。スカートを履いているひとを見かけることが少なかった（特にミニスカート）。ウールコートよりもダウンコートの人が多い。14～17℃近くになると半袖やタンクトップを着用している。サングラスの着用率が高い。ヘアスタイルは、基本的に巻いたりせずストレートの方が多く、ヘアアレンジもほとんど見なかった。男女ともに短髪の人が少なかった。フリマに来ていた若者は、特にお洒落であると感じた。男女ともにバックパックが多い。気温が低い日は、ほとんどの人がニット帽を着用していた。カジュアルでシンプルであるが、こなれ感のあるスタイルを良く見た。ノームコアがトレンドで、アクセサリーもシンプルな傾向である。

8. 研修中の一週間のスケジュール

月曜日～木曜日は 10:00～13:30 まで NYEA、授業後は NYEA 周辺でランチや訪問先でランチをし、街中を散策した。金曜日は美術館や博物館、カフェや散策をし、土・日曜日もカフェでランチをしたり、周辺散策やショッピングをした。

9. 研修費用の内訳

・食費　　約 400,000 円
・交通費　　約 40,000 円
・観光費　　約 30,000 円
・土産代　　約 90,000 円

10. まとめ、考察、今後の目標

今回、研修に参加して日本とは異なる環境で生活する人々の姿に大きく影響を受けた。特に、人々が自分自身を表現するために体型や外見を気にすることなく、自由に自分を好きな服を着ている姿は、素敵だ

と思った。私の場合、日本では周りの目を気にしてしまうことが多く、自分が納得するようなファッションを楽しむことができないこともある。その点、ニューヨークでは自分を綺麗に見せる方法や、自分らしさを表現する方法を実践している人が多く、その姿勢に羨ましさを感じた。

また、ニューヨークという大都市で生活しているためか、人々はある意味で他人に無関心であるように感じた。これは、一見すると冷たいように思えるかもしれないが、実際には自己表現や自立心を重視する文化の一環なのだと思う。私自身も、ニューヨークの人々のように自分自身を大切にし、自由に行きていきたいと強く思った。彼らが全く人の目を気にせず、何の悩みもなく、生活しているわけではないと思うが、それでも自分の個性を大切にし、自分のやりたいことを追い求める姿勢には共感を覚えた。

この研修を通じて、私は長期的な海外留学を本格的に考えるきっかけを得た。それは、ニューヨークのような国際都市で生活することで、異なる文化に触れ、自分自身をさらに成長させることができると感じたからだ。また、異文化交流を通じて、間違いなく視野が広がるだろうと考えている。私は、これからも積極的に留学の機会を探していきたい。